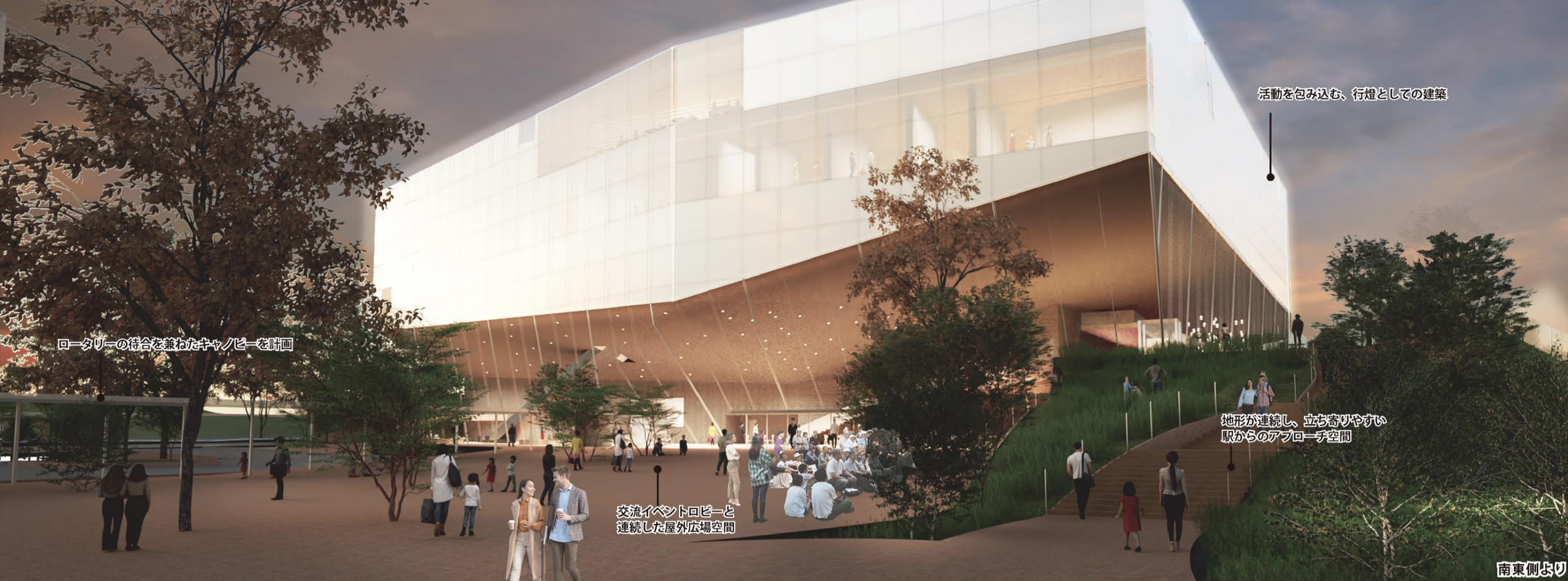


# 「光のかたち」 行燈としての音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の融合



活動を含み込む、行燈としての建築

01 「光のかたち（行燈）」としての建築  
 青葉山の玄関口ともなる立地において、災害を乗り越えてきた人々の営みや音楽・文化芸術の活動がシンボルとなる「光のかたち（行燈）」としての建築を提案します。音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点機能が融合することで生み出される光が「行燈」として周囲を照らし、周辺との調和についても、地面レベル（1Fから2F）では高低差を活かした地形として広場・公園空間として計画することで、青葉山の緑とも調和する緑の風景と、シンボル（行燈）としての風景を両立します。



02 ホール機能と中心部震災メモリアル拠点の融合「3.11 アクシス」

建物のメイン動線となるエスカレーターは、東北地方太平洋沖地震（3.11）の震源域に向けた配置とし、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点機能を融合させる空間「3.11 アクシス」の壁面と床面には震災をテーマとしたプロジェクションマッピングと音楽による演出を行うと共にトップライトを設ける事で、動線空間としてだけでなく、中心部震災メモリアル拠点の導入として映像・音楽による約2分30秒の体験をつくりだします。

03 「創造ラウンジ」による文化芸術活動と復興

災害文化創造支援・発信エリアと文化芸術創造支援・活用エリアを立体的に繋げる「創造ラウンジ」を提案します。「創造ラウンジ」は通路空間と休憩・談話・イベント開催のためのスペースです。ここに面する諸室は可能な限り見せる化を行うことで、プロアマ問わず集う様々な人の活動が溢れ出し交流が期待できる場所となります。両エリアを一体的な場として融合させることで、文化芸術活動と復興を繋げる本施設ならではの場を目指します。

04 使いやすい明快なゾーニング計画

一般の来館者動線と関係者動線とを明確に区別し、両者が利用する中間に配置することで、明快かつ使いやすいゾーニング計画を行います。各階の接続は搬送能力の高いエスカレーターと速達性の高いEVによる効率的な計画とします。

05 地形としてのランドスケープ

1Fから2Fは新たな「地形」として建物と一体的な屋外スペースとして計画します。ホールに目的がない人でも気軽に訪れることができる「公園」となるような各種ファニチャーや遊具等を配し、滞在空間となる計画とします。

06 適材適所のハイブリッド構造

それぞれの部分に求められる機能や施工性に対して最適な材料を選択し、組み合わせる。RC造とS造によるハイブリッドな構造計画を提案します。具体的には、大小ホール周りの構造は遮音性・防音性に優れたRC造とし、プランニングの自由度や開放性が求められる上階部や外周部はS造とします。小ホールに近接したリハーサル室等は浮き構造として遮音・防音対策とします。

07 遮音・防音計画

大ホールには、可能な限り音の出る室を隣接させない構成として音が伝搬しにくい平面計画とします。大ホールや小ホールは厚さ200mm以上のコンクリート・スラブで取り囲む構成を基本とします。大ホールは原則、浮き構造とせず、近接する小ホールや舞台芸術リハーサル室等を浮き構造とする事で、コスト的にも無難な計画を目指します。

08 環境計画

省エネ・自然エネルギーの活用と高効率機器等のベストミックスにより2E readyの取得を目標とします。ホールやホワイエ等の大空間は、居住域空調を基本とし、省エネを両立する音の伝播対策として、消音装置付きのダクト計画や、エリアや室ごとの個別空調を採用します。

09 防災安全のホール

全館避難安全検証法を採用することで、堅固な面や排煙設備等を免除すると共に、大きな吹抜を保持しつつも安全で合理的な防災計画とします。交流イベントロビーやホワイエ吹抜空間に使用制限を設けないため、大・小ホールからホワイエ吹抜空間を経由しない経路を確保します。また、1,2階の両階を避難階とすることで、避難者の集中を緩和し、安全で速やかに避難できる計画となります。

10 ファサード計画

外装は乳白ガラスによるダブルスキンのガラスカーテンウォールとし、環境性能にも優れたつつ、内部の光が漏れ出るファサード計画とします。室内の機能に応じて2枚のガラスの透過度を調整することも可能となります。ガラスは科学的にも優れた計画となります。



可動式の座席により、ワイド形式の音楽ホールを実現

オーケストラホールによって、大規模オーケストラ演奏が可能

大ホール（コンサートホール）

屋外広場と一体利用可能な全開放サテッジ

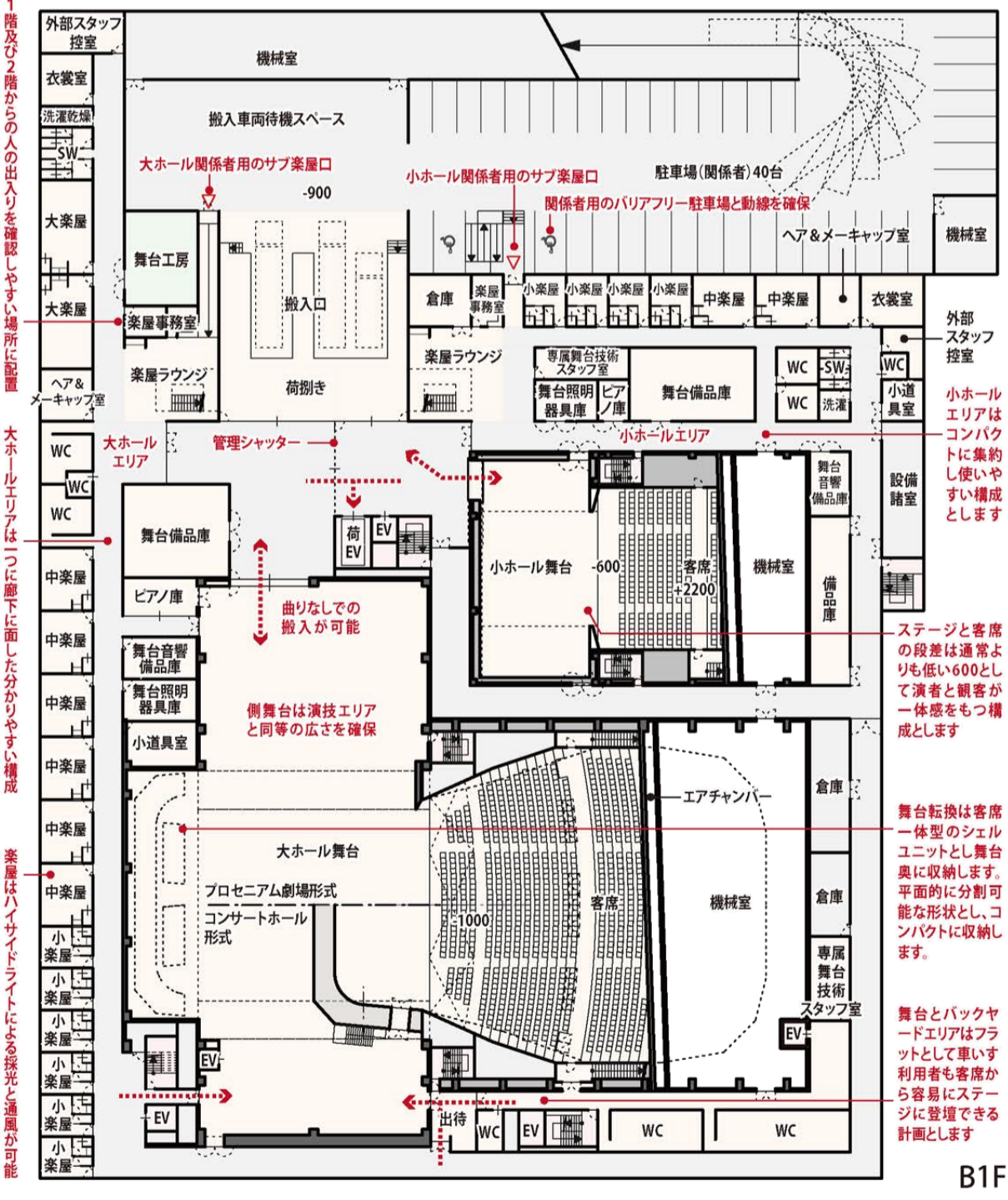
1F交流イベントロビー

仙台市を望みながら誰もが自由に創作表現できる場

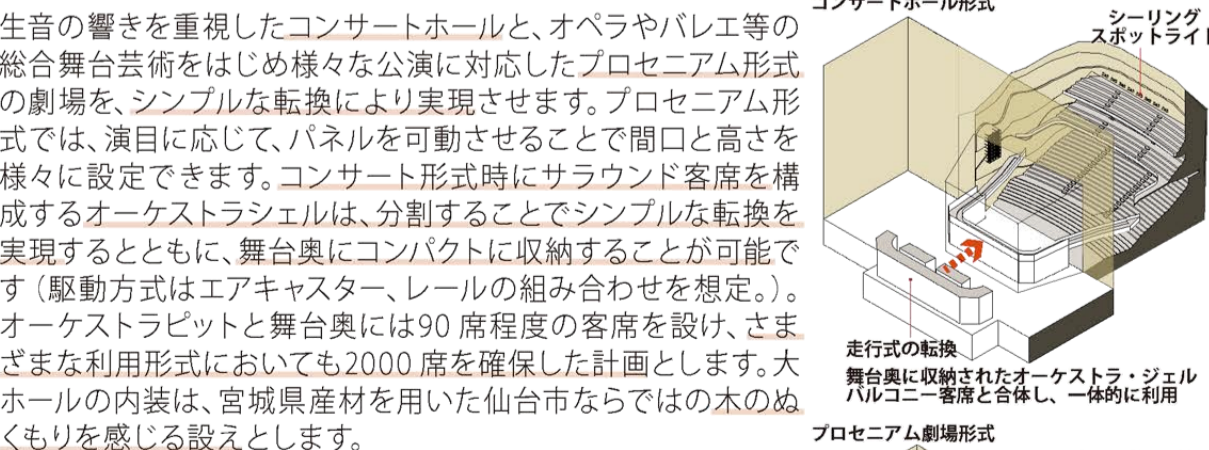
3F創造ラウンジ

映像・音楽・空を仰ぎながら3.11の震源域に向かう静かな移動体験

3.11 アクシス

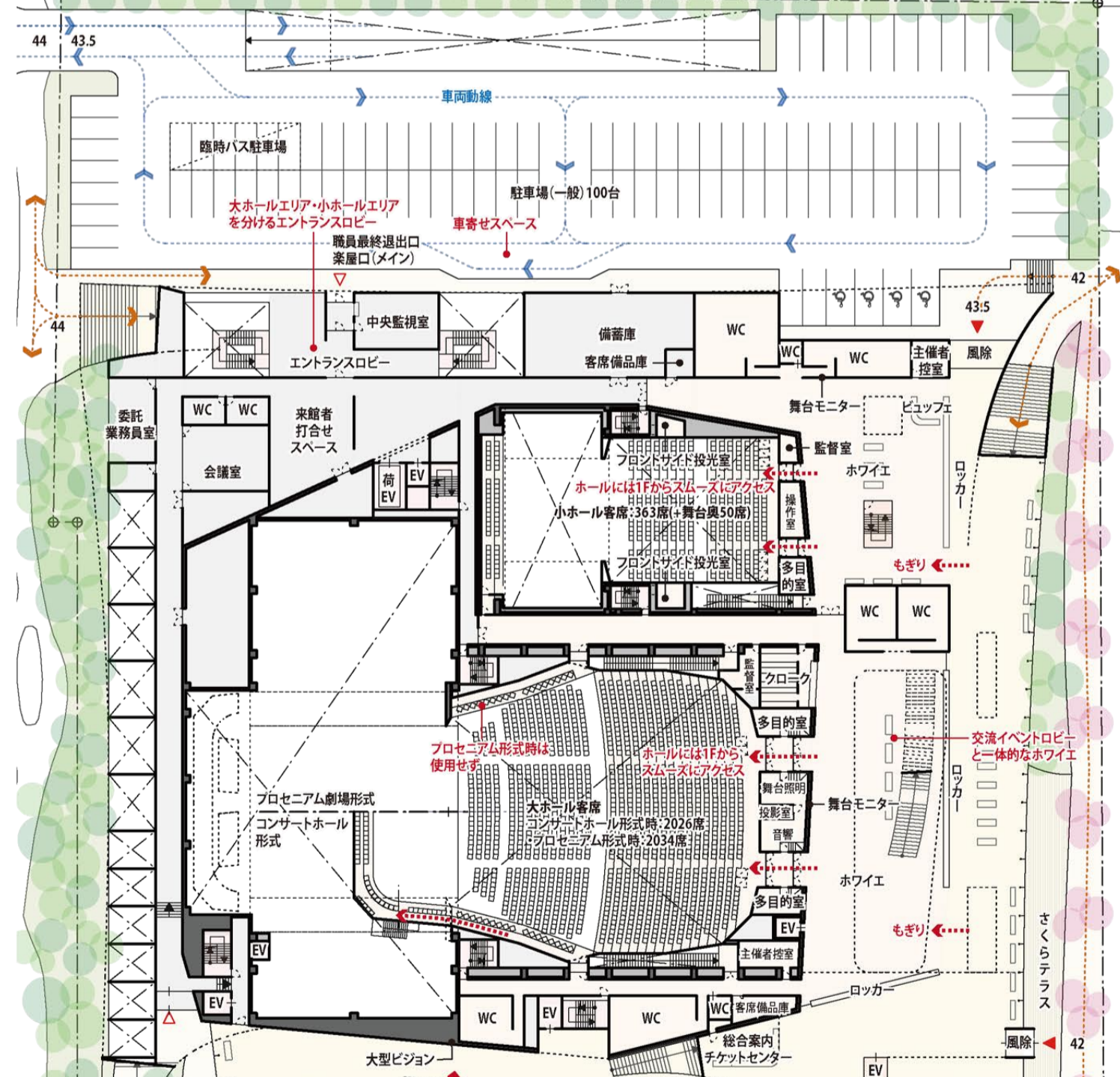


仙台市のフラッグシップホールとしての大ホールの考え方



10階の演技エリア

大ホール（プロセニアム）



2F上

国際センター駅2Fデッキより

南東側より

2F上

国際センター駅2Fデッキより

2F上

国際センター駅2Fデッキより

2F上

国際センター駅2Fデッキより

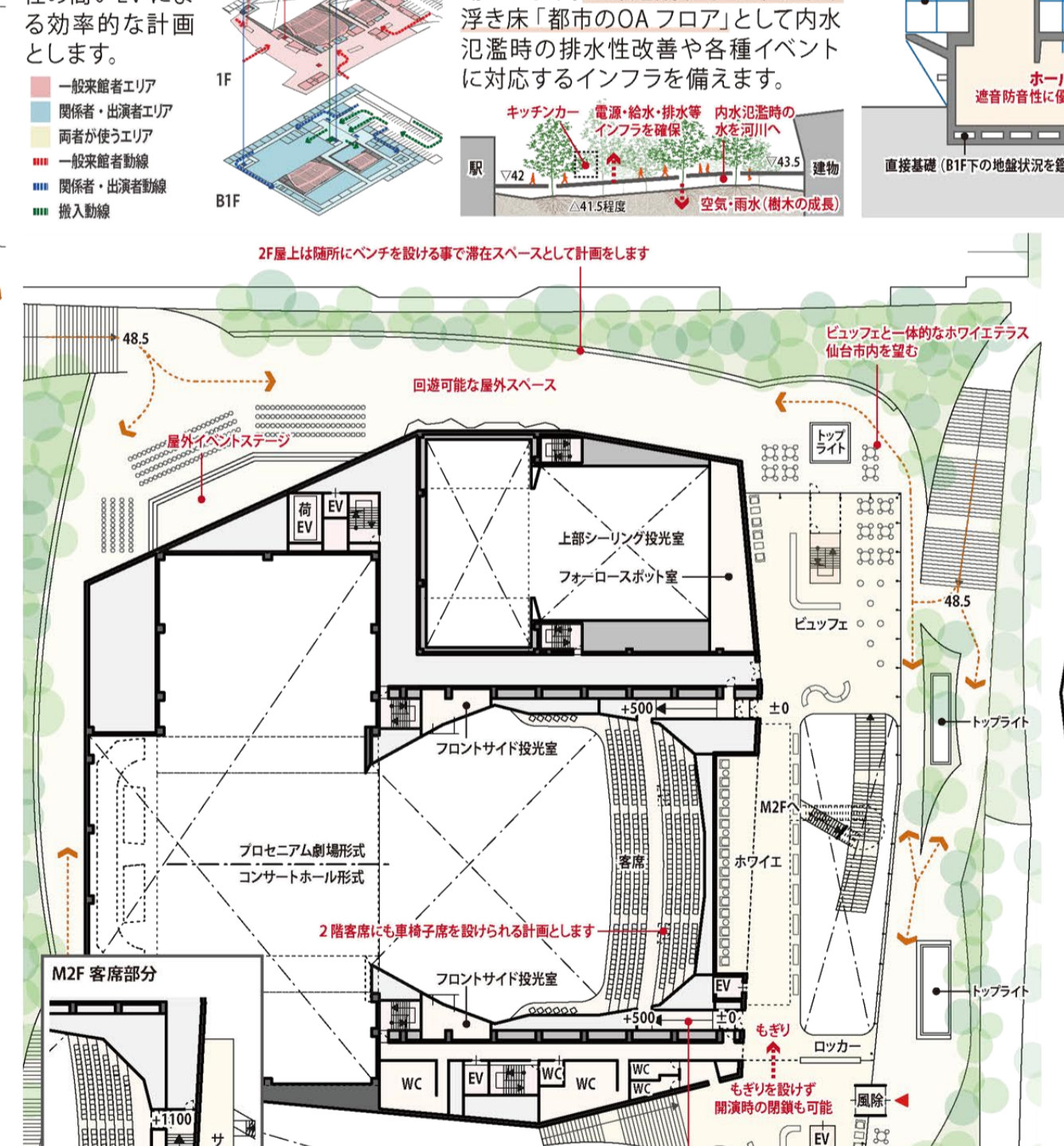
2F上

国際センター駅2Fデッキより

2F上

国際センター駅2Fデッキより

2F上



3F創造ラウンジ

3F創造ラウンジ

3F創造ラウンジ

3F創造ラウンジ

3F創造ラウンジ

3F創造ラウンジ

3F創造ラウンジ

3F創造ラウンジ

3F創造ラウンジ

3F創造ラウンジ

3F創造ラウンジ

3F創造ラウンジ

3F創造ラウンジ

3F創造ラウンジ



4Fレストラフ

4F常設展示スペース

4Fクワイエットテラス

4Fクワイエットテラス

4Fクワイエットテラス

4Fクワイエットテラス

4Fクワイエットテラス

4Fクワイエットテラス

4Fクワイエットテラス

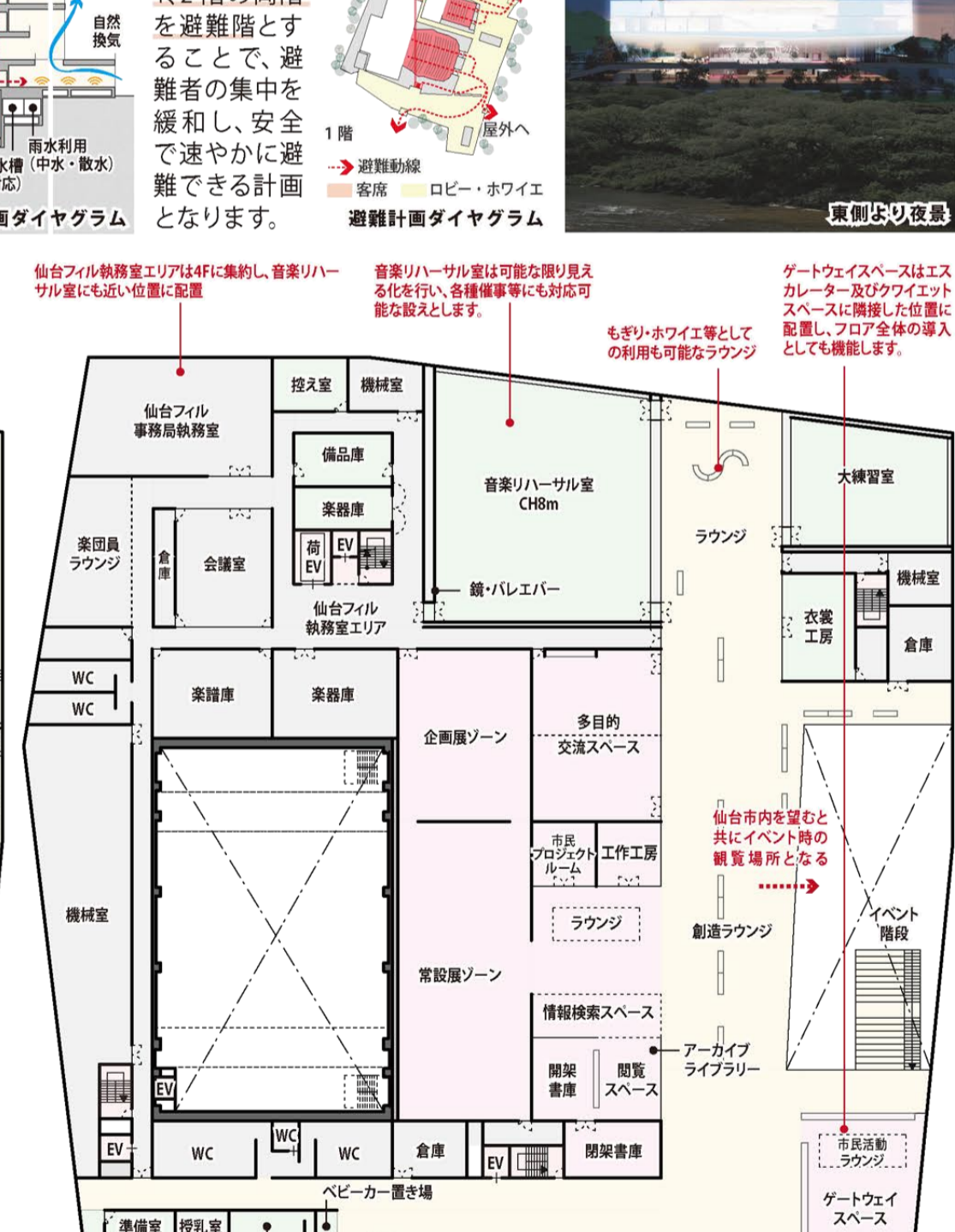
4Fクワイエットテラス

4Fクワイエットテラス

4Fクワイエットテラス

4Fクワイエットテラス

4Fクワイエットテラス



5F創造ラウンジ

5F創造ラウンジ

5F創造ラウンジ

5F創造ラウンジ

5F創造ラウンジ

5F創造ラウンジ

5F創造ラウンジ

5F創造ラウンジ

5F創造ラウンジ

5F創造ラウンジ

5F創造ラウンジ

5F創造ラウンジ

5F創造ラウンジ

5F創造ラウンジ